

つばさ

情報紙

～男女共同参画社会の実現をめざして～



▲ 楽しく、わかりやすく、男女共同参画の視点で、創作講談を披露される宝井琴桜さん



▲ 手づくり絵本の展示に、思わず「きれいに作ってあるね。」



▲ 熱心に展示に見入る参加者のみなさん



▲ 「あなたへの手紙」入賞者のみなさん
左から啓合聖子さん、高橋ゆさ子さん、堀 始さん、長谷 | 隆広さん (大久保穂子さんは欠席)

主な内容 津市男女共同参画フォーラムを開催
～とものつくりよう 元気な津市を～
講談「山下さんの物語」
紙芝居「男女共同参画ってな～に？」
映画「スタンドアップ」

2007.3 NO.2

津市

津市男女共同参画フォーラム

～とものつくろう! 元気な津市を～



1月19日(金) 20日(土)、津市男女共同参画フォーラムが、津リージョンプラザで開催されました。合併して広域となった市内各地域、また広く市外からも、老若男女多くの人々が、さまざま催しに参加し、男女共同参画について思いを新たこされました。

タイムスケジュール TIME SCHEDULE

1月19日(金) 映画「スタンドアップ」上映会

13:00～15:10 1回目映画上映
15:25～16:30 映画合評会
【ジェンターの視点である】
講師 鈴山 雅子 (三重県男女共同参画センター所長)

18:40～20:50 2回目映画上映

1月20日(土)

13:00～ 主催者あいさつ
男女共同参画フォーラム実行委員会委員長 佐藤 肇子
津 市長 松田 直久

13:10～ 電子紙芝居 上演
「男女共同参画ってなに?」

13:40～ 「あなたへの手紙」入賞者表彰式

13:50～ 講 談
「山下さんちの物語」
～女もイキイキ、男もイキイキ～ 宝井 琴桜

15:30～ 閉会式
男女共同参画フォーラム実行委員会副委員長 堤 民子



講談 宝井琴桜さん 日本初 女性真打 「山下さんちの物語」

20日(土)午後 お城ホールで ～女もイキイキ、男もイキイキ～

「女には無理」と言われて

少女の頃から落語に興味を持っていました。秋田の中学時代、自習になると前の教壇で落語を演り、いつか「趣味じゃなくプロで」と思うようになりました。

東京に出て、講談の世界に入って間もないある日、先輩達に言われました。「アンタ講談やめなさい」「女に講談は無理なんだよ。嫁に行ったら子どもを産むのが女の幸せってものだ」「講談は男の世界だ」「女にできる訳がない」。

駄目かどうか、無理かどうかは、ある程度やってみなくちゃわかりません。それをやりもしないうちに、女だからというだけで決めつけられて悔しくないわけはありません。「やめろ」と言われてもやめるもんか。

そのときから、今年5月で39年。今、講談の世界では、プロの講談師

の50%が女性。変われば変わるもんです。

今日の「山下さんちの物語」は創作。講談には古典と創作があります。講談も古典だけでは物足りない、男の視点の物語です。男社会に女が入って、男と同じことをしているのはダメと思った。女の視点を取り上げないと、女が入った意味がない。

「山下さんちの物語」

～カツゾウさん シゲコさん編～

カツゾウさんは定年退職、シゲコさんは地域活動している夫婦です。昨年のある朝、シゲコさんが出かけようとする、カツゾウさん どこ行くんだ?何時に帰る?俺の昼飯はどうする?」シゲコさん「今日は地域の「ゴミ仲間の会」で、議会の傍聴に行くんですよ。エンパワーメントって、女も力を付けようってことで。」



カツゾウさん「だからって何で俺が昼飯の支度をしなきゃいけないんだ。」シゲコさん「お父さんが定年退職したんだから、私もお父さんのお世話係から定年退職させてくださいな。」シゲコさん、仲間の鈴木さんへ。すると鈴木さんの夫がエプロン姿で、「晩飯、俺が支度しとくから。」シゲコさん「理解ある夫ね。うらやましい。」

鈴木さん「いいわね男は。エプロンしてるだけで褒められる。」続いて仲間の近藤さんち。近藤さん「頭きた。ウチの人、いつもテレビの前でゴロゴロ。いっそ熟年離婚と思うけど、年金半分もらえる来年まで我慢するわ。」(ちょっと待って。熟年離婚には大した恩恵はないのです。)

「年金分割の勉強会しようかしら。」「遺族年金のほうがいい?」

1か月後。

ありがとうございました

男女共同参画フォーラム
実行委員長 佐藤 肇子さん

10の市町村が合併し 大きな津市になってはじめての男女共同参画フォーラムを津リージョンプラザと白山総合文化センターしらさぎホールで開催しました。

人ひとりが大切にされ、性別にかかわらず それぞれの個性と能力を発揮して自分らしく生きることが出来る社会また 男女が同じ人間として自分の生き方に責任を持ち 男女の違いはもろもろ価値観の違いなど様々な違いを越えて認め合い 協力し合う社会を目指して開かれているフォーラムです。

男性も女性もはもちろんですが、合併

によって広がった市のいろいろな地域から また高齢者も若い人にも参加していただきたい そんな思いでフォーラムのテーマを とものつくろう!元気な津市をとしました。そしてポスターやチラシのカラフルな文字の色とジグソーパズルの背景地図でそれを表しました。

講談界初の女性真打 宝井琴桜さんは「女だけがイキイキするのではなく 男も女も一緒にイキイキ」なんだと 日常生活の中での男女共同参画を「講談」でユーモアたっぷり愉快に楽しく話していただきました。

また 白山しらさぎホールでは井岡大義さんに「すこやかな命をはぐくむために」と題して講演していただきました。「出来ることならもう一度子育てしたい」と思われた方も多かったのではないでしょ



うか。男性も女性も とものに自分らしくイキイキ暮らせるように それぞれが日々の生活を見直していきたいものです。

フォーラムの開催にあたりまして ご協力 ご支援いただきました皆様に 紙面をお借りし 心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

シゲコさん「お父さん」ゴミ仲間の会」で海外視察10日間、行ってもいいかしら。」

カツゾウさん「ああ、安心して行ってこい。」

シゲコさん「1か月で変わったね、お父さん。」

カツゾウさん「その代わり、出発まで俺は家事見習いをする。弟子してくれ。」

そして2か月後。シゲコさんは海外視察に出発したのであります。

妻が死んでから気がついた。どうして妻が生きているうちに、手助けしてやらなかったんだろうかって。介護は女の役割だからって、性別だけで決めつけていた。「自分は男だからそんなことしなくていい、するもんじゃない」なんてのん気に構えていたツゲが、今、自分に回って来てしまった。「苦勞をかけるよ」と思いやってくるつもりでも、妻の本当の苦勞は理解していなかった。」

しなやかに、男女共同参画

与謝野晶子は、11人の子どもの母親です。家事 育児と作家活動を両立していた、スーパーウーマンです。でも、決して晶子1人の力ではありません。夫 鉄幹も子育てに参画していました。そしてサポーターもいっぱいいました。当時はお手伝いさんを雇うこともできました。

でも今は、お手伝いさんを雇うことができなくなってきました。だから、社会全体の力でサポートすることが必要なんです。

「参加」と「参画」は違います。例えば家事。頼まれてするのは「参加」、言われなくてもするのが「参画」です。また家事分担も、性別役割分担でなく、その家にあった役割分担にすることが大切です。最初はぶつかることもあります。女はまず、相手を褒めることから始めてください。

(講談から要約)

講談を聴かれた感想は? (当日参加者アンケートから)

初めての講談。分かりやすく、流暢な流れで、あっという間に時間が過ぎてしまいました。趣旨ははっきりと理解しやすかったですと思います。(50歳代 女)

講談が一番好きです。今後もそういった新物語(創作)、旧物語(古典)を聞きたいと思えます。(70歳以上 男)

講談は説得力があつてよかった。お話の展開も面白く、大変役に立った。これからの世代、大学生や若い方に聞かせたい。(70歳以上 女)

取材記者メモ

「山下さんちの物語」は現在進行形、と琴桜さんが言われるとおり10年程前 白山町民会館 当時で講談を聴いて以来、久しぶりに会うこととなった山下さんちの家族は みんな成長していました。娘のケイコさんは課長になっているし 祖母のハナさんは「男女共同参画」DV という言葉を使い行動する女になっているし。

かつてはそれらの言葉がなかったため 何かモヤモヤしていても問題であることすら分からなかった私たち。問題を言語化することの大切さも感じた今回の講談でした。

紙芝居 「男女共同参画ってな〜に？」

男女共同参画フォーラム実行委員会では、多くのみなさんに少しでもわかりやすく、男女共同参画について知ってもらおうと、家庭で、地域で、学校で、職場でといった身近にある事例を取り上げた紙芝居を制作しました。

実行委員がみんなで、台本をつくり、イラストの得意な委員が下絵を描き、みんなで手分けして色を塗って仕上げました。

そして、パワーポイントによる電子紙芝居として、フォーラムで上演しました。もちろん、実行委員が生で演じました。

本紙では、15場面ある紙芝居のうち4場面を紹介しましょう。



家庭編 「今日の夕飯は僕が・・・」



お昼休みの職場で、いつも弁当の賛崎さんがパンを食べているところへ同僚の河芸さんがこの日の飲み会の打ち合わせにきました。

賛崎さんの妻が熱を出して、お弁当はなしとのこと。妻が寝ているのに飲み会をキャンセルしない賛崎さんに、河芸さんは、「奥さんと子どもの夕飯、どうするんだ？奥さんの調子の悪いときくらい、早く帰って夕飯を作ってやれよ。ただでさえ残業が多くて、毎日遅いんだから。」

河芸さんは、妻の病気のときだけでなく、休みの日なども食事を作っているそうです。

みんなの連携プレーで 紙芝居を制作して

川口 節子さん(実行委員)

紙芝居 男女共同参画ってな〜に？の制作は 楽しく親しみやすい内容にしようと実行委員が原稿を寄せ合いながら文章づくりから始めました。それぞれの体験や問題と感じたこと、身近な出来事、見たり聞いたりしたことを元に 家庭、地域、学校、職場の4つの場面を想定し 登場人物の設定や会話のやりとりを作り上げていく過程は私たち実行委員が改めて男女共同参画について深く考えるよい機会となりました。また 表現については人権にも考慮し、何度も推敲を重ね、これとてもよい勉強になりました。

さて 紙芝居のイラストの原画は 実行委員の高橋礼子さんが みんなのやりとりを聞きながら 場面の情景をスケッチブックにさらさらと描き上げ みんなの意見を聞き その場で修正す

るといふ彼女の素晴らしい技術とみんなの連携プレーで進められ、みごとに出来上がりました。ワイワイガヤガヤ話し合いながら色を決め みんなで分担した色づけ作業も楽しい思い出となりました。

大きな会場での上演にと パワーポイントにも仕上げました。

なにはともあれ、個性と能力を発揮して皆で力を合わせ作り上げた紙芝居はフォーラムの後も何かの形で発展させていきたいものです。

みんなで作った 紙芝居を演じて

堤 氏子さん(実行委員)

男女共同参画を推進しようとするときに日常生活の中でさまざまな“それって変”にぶつかることがあります。それをみんなで話し合い 考えて紙芝居にしていくことになりました。

出来上がった紙芝居を見ながら役づくりです。「どんなことあって こんな

こと言うんやろ？「地域性や育った環境やろか？「台詞がびったりこんなあ 等、いろいろな意見が出て ストーリーに気持ちが入りました。

全体のストーリーを全員で把握 共有したところで、さあ 上演に向けての準備が整いました。

今まで共有してきた場面と気持ちに、これからは個々に自分の担当する役に命を吹き込みます。感情 その場の雰囲気などを入れながらの役づくりです。自分の言葉での雰囲気づくりと演技を心がけました。

見ていただいたみなさんにどれだけ気持ちが伝わったかわかりませんが 楽しみながら 生懸命に口演しました。少しでも“それって変”が伝わっていればうれしいです。

これからも この紙芝居を通じて 楽しみながら 男女共同参画を啓発していきたいと思っています。

地域編 「実際に活動する人の名前で！」

自治会の新年度役員の役職を決めるのに、旧会長と新役員が集まっています。

会長、副会長と決まり、会計を頼まれた大門さんは、「主人は仕事が忙しいので、とりあえず主人の名前にしてもらって、代理で私がします」と。ところが、「ご主人の名前でじゃなく、大門さん、あなたのお名前をお願いします。」と言われました。

女性の自治会長、PTA会長は徐々に増えてきていますが、まだまだ少数です。しかも、いまだに「会長は男性」と規定されている場合があり、機会があっても見直されない地域もあります。



学校編 「男の子だって泣いてもいい」



運動会の日、1レに出た栗真君が転んで、両膝と両肘をすりむいてしまいました。かなり血も出ています。栗真君は、痛いとき血を見てさらにびっくりし、大きな声で泣き出しました。

栗真君に駆け寄ったチームの女の子は、「男の子のくせに泣いてるの「お母さんが、弟にも男の子は泣いちゃダメって言ってるわ」と。

別の男の子が「男だって痛いものは痛いし、我慢できないときもあるし、そんなときは泣いたって仕方ないって保健の先生が言ってた」と言いました。

上級生の女の子が来ました。「けがをしたらみんな痛いよね。女の子だっていつまでもメノメノはダメよ」と。

職場編 「取りたくても取りにくい育児休業」

会社の昼休み、妻がもうじき産休明けで職場復帰する 志さんが職場の仲間と話しています。

保育園が一枠で、すぐには子どもが入れなさそうで、 志さんは思い切って自分が育児休業を取ろうかと。

でも仕事のことなど心配です。後輩社員は、後に続く自分たちのためにも、育児休業取得に賛成、 志さんを応援します。

育児休業中の賃金補償のある事業所はわずかです。ほとんどの事業所は子供が1歳になるまでの間、給料の30%が雇用保険から支給されるだけです。育児休業は仕事のことだけでなく、経済的にも取りにくい状況です。



ぶらり

Library

ライブラリー

第2回



第2回は、津市一志図書館。「とことめの里一志」の中にあり、敷地内には一志温泉、遊歩道、朝市なども開かれ、にぎわいを見せています。今回は、数ある図書の中から、この3冊をオススメします。



迷走する両立支援

～いま、子どもをもって働くということ～

萩原久美子 著
2006年 太田出版エディタス

両立支援と機会均等。女も男も、子どもを育てつつ、よりよく働きたい。その願いを、日米に探ります。

人身売買をなくすために

～受入大国日本の課題～

古田容子新修 JNATIP 編
2004年 明治書局

国際的人身売買は過去の問題ではありません。そして日本男性だけでなく日本女性の問題でもあるのです。

押忍! 手芸部

～日本一勇前な手芸本～

押忍! 手芸部 著
2006年 池田書店

男達よ。包丁の次は手芸だ。Tシャツリフォームから戦隊ヒーローまで。教訓「余計なことは考えない。」

情報紙の名前が決まりました。
「つばさ」です。よろしく。

創刊号で募集しました情報紙の名前には 多数のご応募をいただきありがとうございました。

その中から津市白山町在住の吉川俊子さんの作品を採用し、次のとおり決定させていただきました。

情報紙の名前 「つばさ」

名前の意味 だれもが自由な心で生きられる社会を思い 男女共同参画社会の実現に向かって飛躍していきたい という願いを込め その力となる「翼=つばさ」を象徴しています。

☆市内在住 在勤 在学の方は どのたでも借りられます。図書館ごとにカードを作る必要があります。

☆紹介の本は、市内の他の図書館でも所蔵していることがあります。

☆お近くの図書館に紹介の本がない時でも取り寄せてもらって借りる方法があります。詳しくは 津市図書館ホームページ (<http://www.tosyo.city.tsu.mie.jp/>) または図書館の受付窓口にお尋ねください。

ぶらり

Library

ライブラリー

番外編

市民活動センター(センターバレス3階)および橋南 雲出 白塚 高茶屋 北部西部の各市民センターに、新しく男女共同参画の図書が2冊入りました。市民の方なら誰でも、閲覧 貸し出しができます。ご利用ください。お問い合わせは、市男女共同参画室まで。

うん このあかちゃん

～おとうちゃんの出産絵日記～

長谷川義史 著
2006年 クレヨンハウス

3度の立会い出産とその後の子育てでどんどん父親になっていく。家族の絆について考えさせられます。

あなたには「朕」があるか?

～365日で変わる本～

宮藤 勇 著
2006年 講談社

従来の「らしさ」の押し付けだけかと思ったら、女性の自立 成功のヒントもちゃんと書いてありました。

ぶらり

Library

ライブラリー

番外編 その2

男女共同参画室にも新しい図書が入りました。詳しくは市男女共同参画室までお尋ねください。

軍需産業と女性労働

～第二次世界大戦下の日米比較～

佐藤千登勢 著
2003年 彩流社

男性労働者不足を補うため駆り出された女性達。戦中にながら必要とされ、戦後どのように排除されたのか。



編集後記

☆「男女共同参画」、それは「人ひとりその人自身の個性で輝きながら生きること」だと思います。様々な活動や話を聞く機会であったフォーラムを終えて、あらためてそう感じました。 青木貴子

☆合併後初めてのフォーラム。参加される方々の広がりだけでなく、意識の高さを実感しました。私もテイクよりギブの精神でがんばります。 佐藤ゆかり

☆今、マスコミで話題になっている「出産、育児、介護」等を紙面を通して、意見交換ができればいいなと思ってきました。今後も 市民として協力させていただきます。 澤井儀雄

編集 発行/津市市民部男女共同参画室

〒514-8611 津市西丸之内23番1号 TEL 059-229-3103 FAX 059-229-3366 E-mail 229-3103@city.tsu.lg.jp

編集 協力/津市男女共同参画情報紙「つばさ」編集スタッフ 青木 貴子 佐藤 ゆかり 澤井 儀雄 (50音順/敬称略)

2100
津市男女共同参画情報紙